

日本農業新聞

2019年(令和元年)

6 30

日曜日

味、色…個性で勝負

東京・豊洲で青果見本市



試食を用意し、品種の特徴を来場者に説明する種苗会社(29日、東京都江東区の豊洲市場で)

種苗会社や卸売会社でつくる青果育種研究会は29日、東京都中央卸売市場豊洲市場で品種見本市を開いた。種苗・資材会社19社が新品種を含む77種の野菜や果実について、試食などで流通関係者にPRした。個性的な食味や色など、実需を意識した商品提案が多く、仲卸など来場者と活発に

意見交換する姿もあつた。

パイオニアエコサイエンスは、加熱にも適したトマト「シシリアンルージュ」と、今年新たに発売した鮮やかな黄系の「ナポリターナカナリア」などを振る舞った。「複数の色を組み合わせて販売したい」というニーズは根強くある(園芸

種子部)と、販路拡大を狙う。

アサヒ農園は、ワサビのような風味がある新品種のルッコラ「わさびルッコラ」を提案し、関心を集めた。「レストランの料理人から扱ってみたいと言われるなど好感触があった。販売時の荷姿などを考えながら、生産者に広めていきたい」(営業

部)と展望する。今回初めて出展した小林種苗は、芯の部分が短い「おかわりキャベツ」を用意。「生食だけでなく、ロスが少ないため加工に適している」とアピールした。

見本市の前には、環境制御ハウスでトマトの栽培を手掛けるベジアート(神奈川県平塚市)の古川慎一社長が、次世代農業をテーマにしたセミナーを開いた。